



わになって

幕別町発達支援センター

令和5年度
第3号

令和5年9月1日発行

外出が制限されるほどの猛暑が続く…、いつまで続くのか心配になってきますね。

さて、今年の夏は各地で“お祭り”“花火”が開催されましたが、どこかに行かれましたか？夏の思い出作りに子ども達に楽しんでほしいという大人の願いもありますが、社会性を育てる上でも貴重な経験になると思います。また、地域のコミュニティの場として大切なのではないかとコロナ禍を経て改めて感じます。そして、大人も子どもも“楽しかった思い出”が地域の“安心”につながって欲しいと思います。

生活リズムや環境を整え心と体の休息をとりながら、この先も続く猛暑!?を乗り切り、“楽しい経験(思い出)”を積み重ねてくださいね。



発達支援講演会を開催しました！

7月25日札内コミュニティプラザにおいて、「office夢風舎」の土屋徹さんを招き、『不安や悩みもこれで解決!?心に響く叱り方と褒め方でやる気を育てる～こどもと信頼関係を築くために～』と題して講演会を開催しました。参加された方もいるかと思いますが、講演の内容を一部お伝えいたします。

☆子どもの行動には意味がある

子どもの行動(状態)は、その子自身の体質や特性だけではなく、過去に積み重ねてきた経験と環境が大きく影響しています。すなわち、環境や経験が変わると子どもの行動も変わるということになります。良い経験(褒められる)ができると行動に良い影響が生まれ、その結果が更に行動に良い影響を与えるといった好循環を生み出します。



☆受け止め方に配慮する(見方を変える)

例えば「集中力が続かない」→「好奇心旺盛・周りをよく見ている」、「すぐ怒る」→「感情表現が豊か」「自分の気持ちに正直」、「言うことを聞かない」→「我が強い」「意思がしっかりしている」など受け止め方(見方)をかえると、大人のイライラも減り伝え方にも変化がでてくるかもしれません。

☆褒め上手になるために

- ①常にアンテナを張り巡らせよう⇒当たり前と思うことからほめる意識が大切です。
- ②過程や努力に注目しよう⇒普段から子どものことを気にかけるようになります。
- ③行動にどんな意味があるかを伝えよう⇒大人自身も行動に意味があると理解できます。
- ④全身で表現しよう⇒言葉のほか、拍手・頷き・身振り手振りなど相手に伝わるのが大切です。
- ⑤褒める場所やタイミングに気をつけよう⇒みんなの前で褒められることを嫌がる子もいます。状況に合わせて個別に褒めたり、他者を介して褒めたりするのも効果的です。

子どもの良い行動を増やすためには褒めることが大切と頭でわかっている、実は大人自身が行動を変える(褒め上手になる)ことが難しいのです。一人では上手くいきませんが、大人たちもお互いに褒め合いながら子ども達のやる気を育ててあげられたらと思います。

サポートファイルについて



【サポートファイル「まっく・りんぐ」を使ってみよう】を配布しました。有効に活用することがお子さんの成長にもつながると考えていますので、資料を読んで再確認していただけたらと思います。また、大きな目的の一つが「**各関係機関との連携**」です。関係機関同士で個別支援計画を送付するのではなく、保護者を通して個別支援計画等の交換・情報共有を行うことによってより共通理解が図られると考えていますので、ご理解とご協力をお願いします。

本の貸し出しについて



今年度から、図書館と連携して本の貸し出しを行っています。一人3冊まで借りることができ、借り方については掲示していますが、借りる・返す際は必ず担当へ声をかけてください。

本を通して、感情、言葉、知識…豊かな刺激を与えることができます。まずは、**本が身近にある環境づくり**を大切にしたいと考えています。是非ご利用ください!!

8月21日～9月15日の間、実習生が入ります。療育を見学させていただく際は担当よりお伝えしますので、ご協力お願い致します。